

自分に見合ったプランで就農準備

就農準備型 1年目



斉宮 大さんと知佳さん（弘前市）

就農を目指したきっかけ

サラリーマン時代、東京から転勤となった青森で素敵な女性との出会いがありました。それが妻です。妻の実家は弘前市で、りんごの栽培（3ha）を営んでおり、休日には二人で農作業に親しんだものです。再びの転勤で東京に戻るときには、妻がついてきてくれました。当時は、環境に馴染めずにいる妻に、随分と気苦労を掛けたことが思い出されます。

そんなとき、東京で開催されていた「就農相談会（新・農業人フェア）」に目が留まり、青森での農作業を懐かしく感じ参加しました。会場では、弘前市やおもり農業支援センターの職員の方々が丁寧に対応してくれましたし、青天農場での農作業研修の案内を受け、そちらにも参加させていただきました。

サラリーマン生活を捨て、農業で生計を立てていくことにいくばくかの不安はありましたが、それ以上に妻とともに親しんだ「農作業が楽しい」という気持ちの方が上回ったので、自分には農業が向いていると思い就農を決意しました。

○就農準備期間の課題

新規就農の手続きを行う際、県民局や市役所それぞれに窓口があり、どの窓口でどの内容を相談していいのかわかりづらいと感じます。また、就農に必要な提出書類を準備し、記入内容を確認していきますが、例えば「認定新規農業者は農地を保有していないといけない」など、農業者が当たり前とするような知識を知らず、手続きが難航する場面もありました。これからは、農業を営む上で必要な知識を少しずつ覚えていきたいと思っています。

○活用した支援事業等

- ・農業次世代人材投資事業（準備型：1年目）

自己紹介

- 氏名・・・斉宮 大さん（30歳）
 斉宮 知佳さん（35歳）
- 出身地・・・山口県（夫）弘前市（妻）
- 予定している経営概要
（令和4年4月開始予定）
 - ・経営面積・・・ビニールハウス（330㎡）2棟
 - ・栽培品目・・・ミニトマト
 - ・販売先・・・JA出荷、インターネット販売

就農予定の経営スタイル

○現在の取り組み

令和3年4月からミニトマト農家での研修を開始しました。研修先では、ベテラン農家から栽培技術だけでなく、農家として生活していく上での苦労話などを聞くことができるので、就農後のイメージ造りに役立てさせていただいています。

○予定の経営スタイルについて

妻の実家の隣接地がりんご園になっています。その一画のりんごの樹を伐採し、令和4年4月から、ミニトマト栽培用のビニールハウス（330㎡）2棟の新設を計画しています。資材費用などの初期投資は日本政策金融公庫の青年等就農資金を利用する予定です。

研修先では、ビニールハウス3棟でミニトマトを栽培しており、それが私たちが目指す経営スタイルです。経営が軌道に乗ってきたら、今の計画より更に1棟増設した3棟のハウスで栽培していきたいと思っています。はじめは夫婦二人三脚での農作業となりますが、収穫期などの繁忙期には臨時の人手も雇い入れて作業していければと考えています。

就農を考えている方へのメッセージ

私たちは会社勤めの時代から、就農に向けた計画を立てて、就農資金を貯蓄してきました。就農するにあたって様々な支援事業がありますが、その全ての支援を活用出来るとは限りません。就農してみたいと考えたら、まずはしっかりと就農計画を立てて、就農に必要な具体的な金額を計算してみる事が大事だと思います。自分達も研修先から、お金が無いと生計も農業も成り立たないということを日々教えてもらっています。